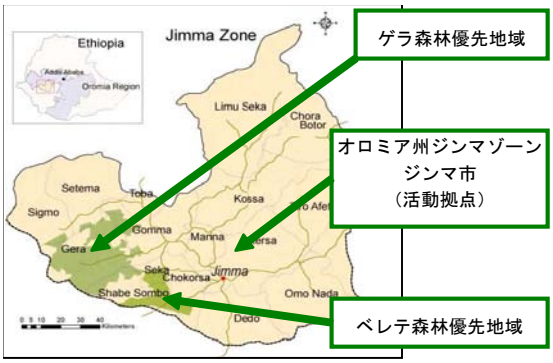
WaBuB PFM News

～Respect Local People's Knowledge for Sustainable Forest Management～

JICA 技術協力プロジェクト
エチオピア　ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画フェーズ2
2007年8月15日発行 （第9号）

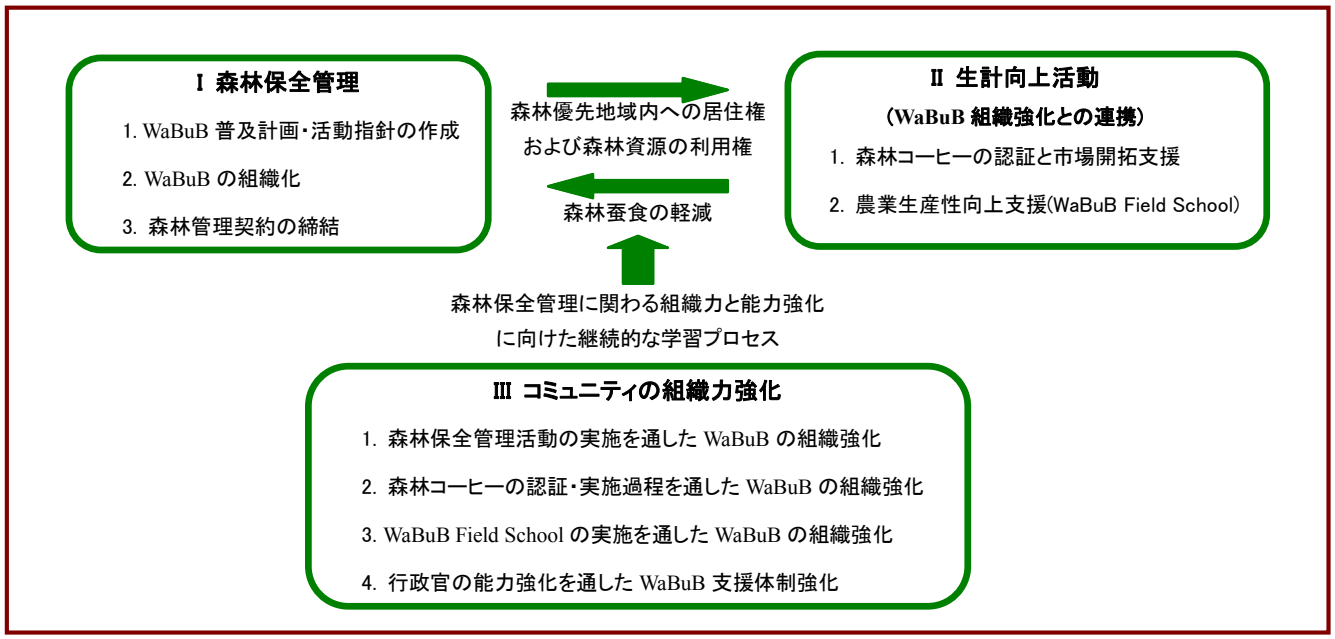


生計向上活動のための研修が始まりました！

ケニア人の専門家を迎え、Farmer Field School（第4号参照）をベレテ・ゲラで実施していくための研修が始まりました。また、森林コーヒーの認証に向けて WaBuB 代表者を対象とした研修を行い、いよいよ具体的な作業に取り掛かかり始めています。今号では、これらの生計向上を目指した活動が、どのように参加型森林管理（WaBuB PFM）の普及と関わっていくのかについて、ご紹介していきたいと思います。

ベレテ・ゲラ NOW　～ WaBuB の実施・普及における 3 本柱 ～

前号まで3回にわたり、WaBuB（森林管理組合）を結成するまでのステップをご紹介しました。ベレテ・ゲラ森林優先地域内に存在する各集落で WaBuB を結成し、住民と森林利用者で構成される WaBuB が中心となり、森林の保全管理活動を実施していきます。しかし、森林の利用というのは、あくまでも住民の生活におけるごく一部に過ぎず、実際には多くの住民が農業を主な生計としています。そこで、農業も含めた住民の生活全体を見据え、生計改善を図りながら、その中でどのように効果的に森林保全管理を促進していくのか…という仕組みを作っていくことが重要になります。



ベレテ・ゲラの森林に居住し、利用する人々の生活全体を改善し、その中で効果的に WaBuB PFM（参加型森林管理）を実施・普及するための仕組みとして、上図のような3つの主活動をプロジェクトとして取り組んでいきます。

1つ目は、各集落単位で WaBuB を結成し、森林管理契約を締結・実施していく「森林保全活動」。この WaBuB を母体とし2つ目の「生計向上活動」を行います。森林コーヒーが多く生えている集落においては、国際的な林産物の認証機関（Rainforest Alliance）による認証を取得することで、住民が適切に森を管理しながらコーヒーを生産し、収入を増加できるような仕組みをつくっていきます。また、森にコーヒーがあまりなく農業に依存している集落においては、国連食糧農業機関（FAO）が開発した Farmer Field School という農業普及手法を改良し、WaBuB Field School（WFS）として実施していきます。WFS を通して農業や苗畑に関する知識や技術の向上を図り、単位面積あたりの農業生産量を増加することで、森林への負荷を減らすことをねらいとします。（森林コーヒー認証や WFC の活動内容については、今後の号で詳しくご紹介します。）

3つ目として、これら一連の森林管理や生計向上活動を通し、各 WaBuB の森林保全に関わる組織力と能力の強化を図ります。同時に、プロジェクト終了後も WaBuB が地域のリソース（組織や人材）から適切な支援を得られるよう、郡の森林官や普及員達の能力強化や体制作りも行っていきます。

WaBuB は、現地オロモ語で（地域住民により組織される）森林管理組合の略称、PFM（Participatory Forest Management）は参加型森林管理の略称です。よって、WaBuB PFM は、本プロジェクトが確立・普及を目指す WaBuB による参加型森林管理方法を意味します。

森林コーヒー認証に向けたトレーニングの開催

近郊村農民との意見交換

「去年のプレミアムはいくらもらった？」「認証審査の時には何を聞かれる？」「認証を得るために特別なコーヒーの管理をしないといけないの？」等々、WaBuB 代表者と、既にコーヒーの認証を受けているジンマ近郊村の農民グループとの意見交換の一幕です。8月2日から4日間、WaBuB アファロ、チャフェ、そして前号で紹介した、新たに組織化された WaBuB メティの代表者計 33 名と、ゲラ、シャベ・ソンボ郡の森林官、普及員やプロジェクト・スタッフを対象に、森林コーヒーの認証に向けたトレーニングを開催しました。

グループワークに真剣に
取り組む参加者

「森林コーヒーの認証を受けて収入が上がるのは嬉しいけど、いったいどんな規則があり、何を準備すればよいのか見当もつかない・・・」というのが、初日の農民たちの感想でした。定型のフォーマットに必要な情報を記入することで認証取得希望者を登録し、森林コーヒーの管理方法を確認するためのチェックリストを記載するなど、農民にとっては馴染みの薄いことばかりでしたが、参加者の真剣に取り組む姿に、我々スタッフも気の引き締まる思いでした。

集落と森林コーヒーの位置を地図
に描き説明する WaBuB 代表者

参加した各 WaBuB の代表者は、森林コーヒー認証プログラムに参加を希望する WaBuB メンバーを登録し、登録を行ったメンバーが所有するコーヒーの森を踏査し、収穫量の見積もりや管理方法をチェックリストに記載して、10 月中旬に予定されている、Rainforest Alliance（前項参照）による認証審査の準備を進めていきます。また、読み書きができないメンバーのために認証登録をサポートするのも WaBuB 代表者の役割です。

プロジェクトでは、認証を受けた森林コーヒーの売り先を確保するために、首都アディス・アベバのコーヒー輸出業者との交渉も行なっています。オロミア州政府からも推薦を受け、現在4社と条件交渉等を進めています。9月末までには、1～2社を選び、本年度の WaBuB 森林コーヒー認証プログラムのパートナーとして、ゲラ、シャベ・ソンボ両郡で認証を受けた森林コーヒーを買い付け、また、コーヒーの質を上げるために、WaBuB メンバーに対して収穫方法や収穫後のコーヒーの乾燥方法等の技術トレーニングも行ってもらう予定です。輸出業者によれば、「欧米における“森林コーヒー”の評判は年々上がっている」ということでした。将来的に WaBuB の代表者が直接にコーヒー業者と交渉を行い、取引条件等を決めることができるよう、組織力強化についてもサポートしていきたいと考えています。

バカダ(BQD)開校！

ベレテ森林のある集落にて、「ばーかーだー！ばーかーだー！」の大合唱が手拍子と共に沸き起こった！！…と言っても、「バカ田大学出身な～のだ～」のバカボンパパではありません。Farmer Field School を現地オロミア語にすると、Barnoota Qote-bulaa Dirree、略して BQD（バカダと発音）になります。

7月20日、FFS（BQD）研修の準備を兼ね、ベレテ森林のグラティ集落において、BQD の説明会を行いました。世帯数は56とやや小さめの集落ですが、約50人の住民が集まりました。BQD とはどのような活動なのか、概要や仕組みを説明すると、住民から「参加したい！」と多くの手が挙がりました。翌週27日には研修の一環として普及員達が中心となり、BQD に参加する32人の住民を選考しました。

BQD の手拍子を子供達に教える
小川短期専門家

今後、研修を受けた普及員達が、担当する集落で WaBuB の組織化と平行して BQD を立上げ、毎週の BQD 実施を支援していく予定です。各地で「バーカーダー！」の声が聞けるよう、プロジェクトも多くの集落をまわり、支援をしていきたいと思います。

ベレテ・ゲラの有用樹種

Badessa (*Syzygium guine*)

WaBuB のメンバーは、オロミア州の法規に従い、森林優先地域内の樹木を伐採することは禁止されています。しかし、森林管理契約では、住居の改築などのために材木が必要な場合、WaBuB 代表委員会(Executive Committee)に申請し、委員の承諾を得ることによって伐採が許可されます。

左下の写真は一見、違法な伐採行為のように見えますが、WaBuB で正式な許可を得て伐採されたバデッサ（Badessa オロミア語の呼称）の木です。委員会は森林の状況を見て、伐採を許可する樹種や本数を判断します。チャフェ WaBuB の場合、バデッサが比較的多く生えており、若木であれば萌芽（ぼうが：伐採された切り株からの出芽）して回復が早いため、許可されることが多い樹種です。年に2回の合同モニタリングでは、森林内での違反行為の他、こうした WaBuB のルールがしっかり守られ、機能しているかどうかも確認します。

9 月中旬までの主な活動予定：
8/31：普及員を対象とした WaBuB Field School 研修終了
8/中旬～9/末：森林コーヒー認証取得に向けた参加農民の登録・踏査
9/3-7:タイ国における「貧困と森林」国際会議にポスター参加

発行元：ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画フェーズ 2　ニュースレターやプロジェクトへのご意見・ご感想もお待ちいたしております。
E-mail: belete-gera@ethionet.et（担当：西村、吉倉）　URL: http://project.jica.go.jp/ethiopia/0604584/